

# 令和6年度 香川県医療的ケア児等にかかる実態調査結果（概要版）

香川県健康福祉部障害福祉課

## 1. 調査目的

人工呼吸器を装着しているなど、日常生活を営むために医療的ケアを要する状態にある障害児者（以下「医療的ケア児等」という。）に対して適切な支援を行うにあたり、本県の医療的ケア児等に係る現状を把握するための調査を行いました。

対象は、地域で生活する下記医療的ケア（★）を要する患者です。なお、小児科が引き続き診ている成人やグループホーム居住者も含まれます。ただし、年齢が40歳以上の方（令和6年3月31日時点）、気管支喘息、糖尿病のみ、あるいは両者の合併のみの患者、睡眠時無呼吸症候群のみの患者は除外します。

★医療的ケアとは下記を行うものを指します。

a. 口、鼻からの吸引    b. エアウェイ挿入    c. 気管切開（喉頭分離術を含む）  
d. 在宅酸素    e. 人工呼吸器装着（NPPVを含める）    f. 経管栄養（口からの経管栄養、経鼻栄養、胃瘻、腸瘻）    g. 導尿    h. 中心静脈栄養、腹膜透析、人工肛門

## 2. 調査概要

### （1）香川県医療的ケア児等にかかる実態調査

調査対象：香川県内の医療的ケア児等にかかる医療機関等

調査方法：県内医療機関に FAX を送付し、回答がない医療機関には電話による回答依頼を実施。

なお、本調査においては 40 歳未満の成人も対象とすることから「在宅患者訪問診療料」を追加している。

調査期間：令和6年7月16日～令和6年7月31日

回収率等：

調査対象数	有効回収数	有効回収率
865医療機関	690医療機関	79.8%

### （2）医療的ケアを必要とする方の支援ニーズに関する調査

調査対象：香川県内の医療的ケア児等の主たる介護者等

調査方法：県内の障害福祉サービス事業所等（訪問看護事業所を含む）や特別支援学校に周知を依頼し、スマートフォンやインターネットから回答

調査期間：令和6年10月29日～令和6年12月16日

有効回答数：77人

### （3）医療的ケア児等の支援に関わる事業所調査

調査対象：香川県内の障害福祉サービス事業所等（訪問看護事業所を含む）

調査方法：スマートフォンやインターネットから回答

調査期間：令和6年10月29日～令和6年12月16日

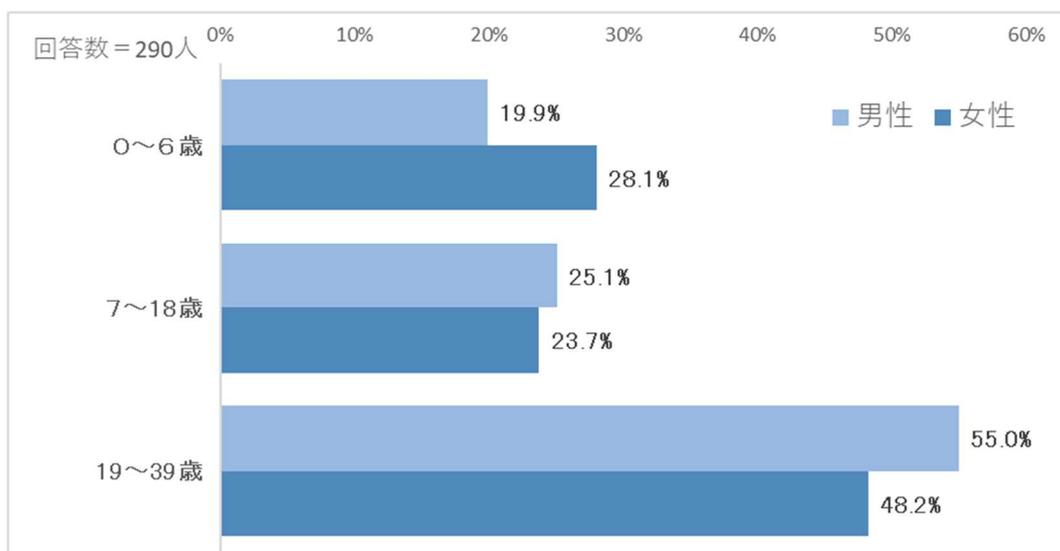
有効回答数：158事業所

### 3. 調査結果

## 『香川県医療的ケア児等にかかる実態調査』の結果

### 1. 算定患者

#### (1) 算定患者の人数



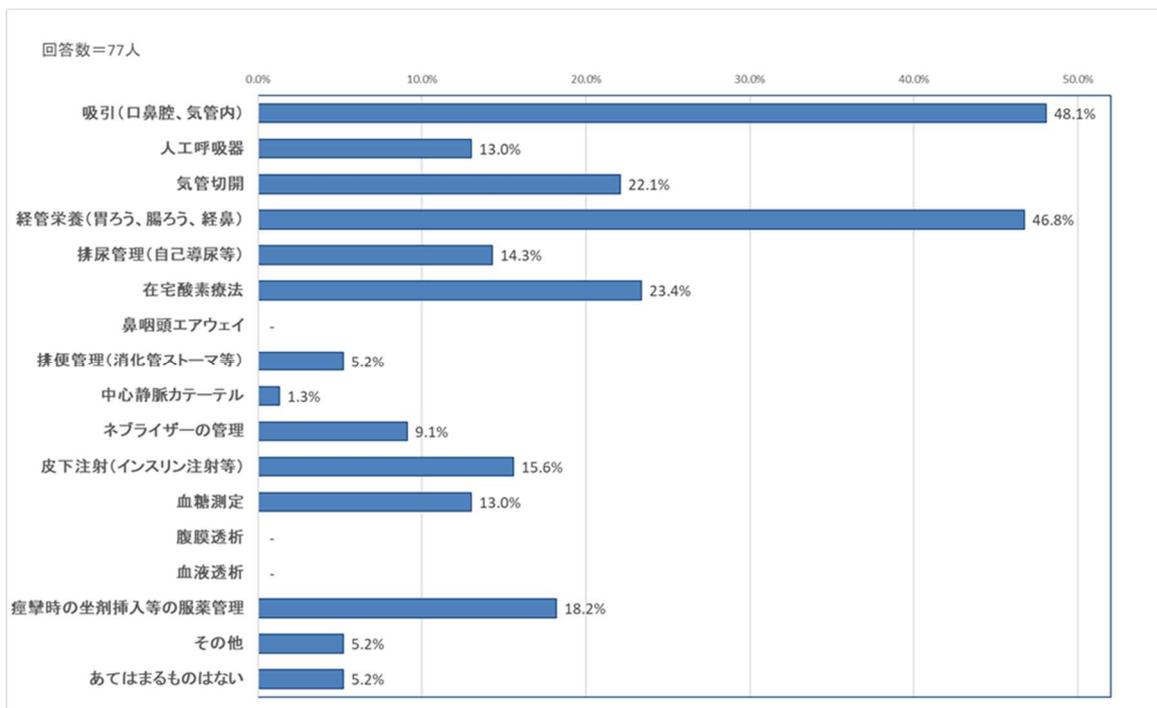
算定患者の人数について、「0～6歳」は69人、「7～18歳」は71人、「19～39歳」は150人となっている。香川県の医療的ケア児等の人数は290人、0～18歳の医療的ケア児の人数は140人となっている（平成30年度調査では、医療的ケア児等の人数：355人、0～18歳の医療的ケア児の人数：160人）。

性別にみると、男性は151人、女性は139人となっている。

# 医療的ケアを必要とする方の支援ニーズに関する調査の結果

## 1. 医療的ケアを必要とするご本人

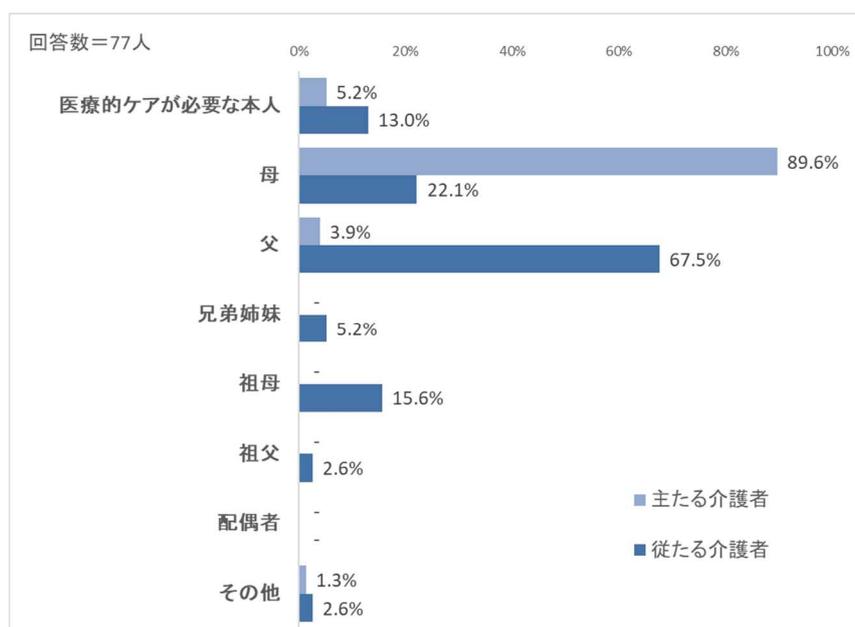
### (1) 現在行っている医療的ケア（複数回答）



現在行っている医療的ケアについて、「吸引」が48.1%と最も多く、次いで「経管栄養」が46.8%、「在宅酸素療法」が23.4%、「気管切開」が22.1%となっている。

## 2. 医療的ケアを行う方

### (1) 自宅で医療的ケアを行う方（従たる介護者は複数回答）



## ①主たる介護者

		主たる介護者（自宅で主に介護・医療的ケアを実施している方）									
		全体	医療的ケアが必要な本人	母	父	兄弟姉妹	祖母	祖父	配偶者	その他	
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	77	4	69	3	-	-	-	-	1
			100.0%	5.2%	89.6%	3.9%	-	-	-	-	1.3%
年齢別	0～6歳		27	-	24	3	-	-	-	-	-
			100.0%	-	88.9%	11.1%	-	-	-	-	-
	7～18歳		33	3	30	-	-	-	-	-	-
			100.0%	9.1%	90.9%	-	-	-	-	-	-
	19～39歳		17	1	15	-	-	-	-	-	1
			100.0%	5.9%	88.2%	-	-	-	-	-	5.9%

「主たる介護者（自宅で主に介護・医療的ケアを実施している方）」は、「母」が89.6%と最も多い。年齢別にみると、「母」が【0～6歳】では88.9%、【7～18歳】では90.9%、【19～39歳】では88.2%となっている。

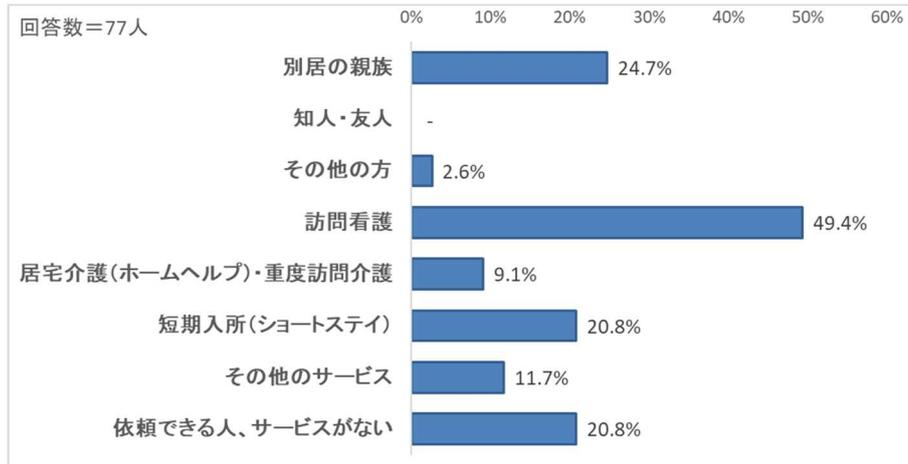
## ②従たる介護者（複数回答）

		主たる介護者（自宅で主に介護・医療的ケアを実施している方）									
		全体	医療的ケアが必要な本人	母	父	兄弟姉妹	祖母	祖父	配偶者	その他	
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	77	4	69	3	-	-	-	-	1
			100.0%	5.2%	89.6%	3.9%	-	-	-	-	1.3%
年齢別	0～6歳		27	-	24	3	-	-	-	-	-
			100.0%	-	88.9%	11.1%	-	-	-	-	-
	7～18歳		33	3	30	-	-	-	-	-	-
			100.0%	9.1%	90.9%	-	-	-	-	-	-
	19～39歳		17	1	15	-	-	-	-	-	1
			100.0%	5.9%	88.2%	-	-	-	-	-	5.9%

「従たる介護者（主たる介護者の他に、介護・医療的ケアを実施している方）」は、「父」が67.5%と最も多く、次いで「母」が22.1%となっている。

年齢別にみると、【0～6歳】では「父」が85.2%と最も多く、次いで「祖母」が25.9%となっている。【7～18歳】では「父」が45.5%と最も多く、次いで「母」が27.3%となっている。【19～39歳】では「父」が82.4%と最も多く、次いで「母」が23.5%となっている。

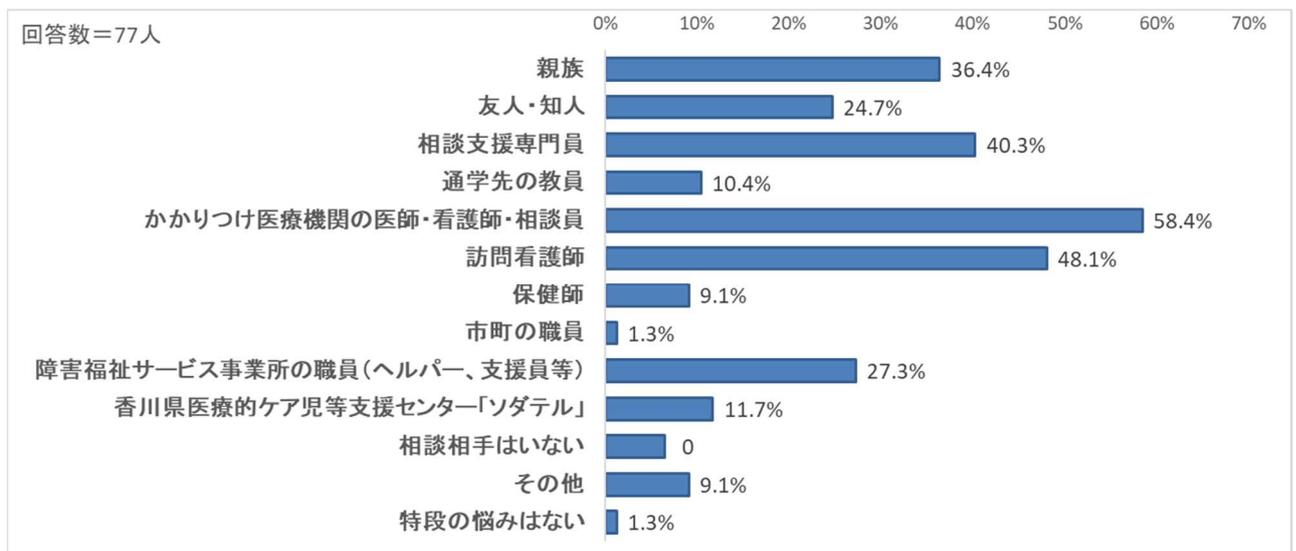
### ③介護・医療的ケアを依頼している方、サービス（複数回答）



主たる介護者、従たる介護者が何らかの理由で介護・医療的ケアを実施できない時に依頼している人、利用しているサービスについては、「訪問看護」が49.4%と最も高く、次いで「別居の親族」が24.7%、「短期入所」「依頼できる人、サービスがない」が20.8%となっている。

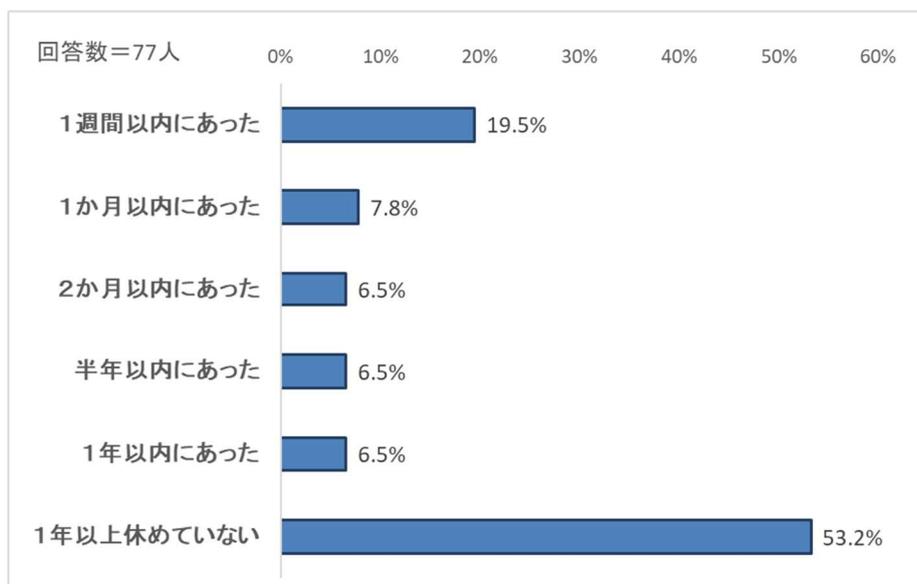
## (2) 主たる介護者の介護等負担の現状

### ① 医療的ケアについて相談できる家族以外の相手（複数回答）



医療的ケアについて相談できる家族以外の相手について、「かかりつけ医療機関の医師・看護師・相談員」（以下「かかりつけ医」という。）が58.4%と最も多く、次いで「訪問看護師」が48.1%、「相談支援専門員」が40.3%、「親族」が36.4%となっている。

## ② 1年以内に介護から1日離れて休むことができた直近の日

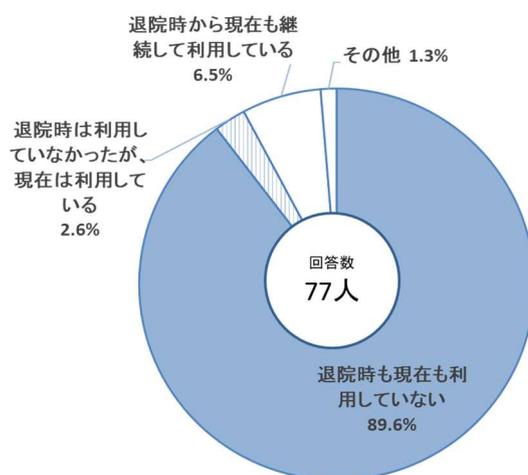


主たる介護者が1年以内に医療的ケアを含む介護から1日(24h)離れて休むことができた直近の日について、「1年以上休めていない」が53.2%と最も多く、次いで「1週間以内にあった」が19.5%となっている。

### 3. 訪問診療・訪問看護の利用

#### (1) 訪問診療・訪問看護の利用

##### ①-1 訪問診療

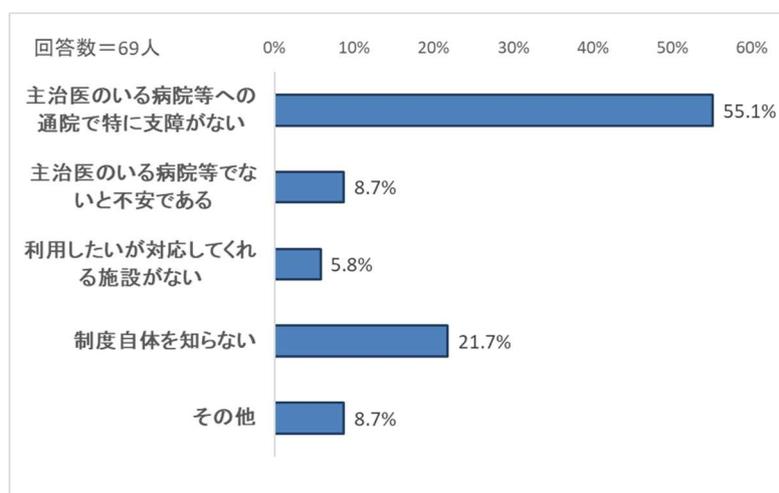


訪問診療について、「退院時も現在も利用していない」が89.6%と最も多い。

年齢別にみても、「退院時も現在も利用していない」が最も多く、【0～6歳】【7～18歳】では100%、【19～39歳】では52.9%となっている。

##### ①-2 訪問診療を利用しない理由

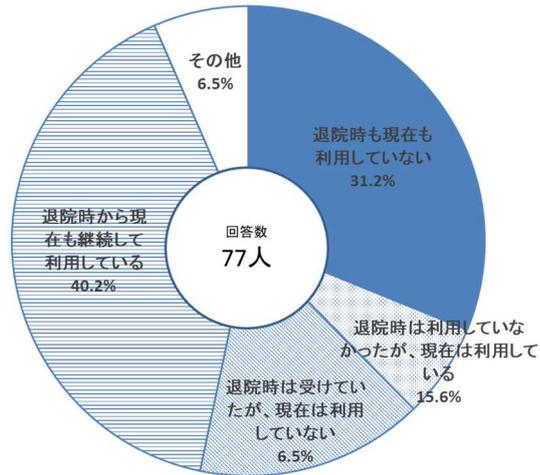
※「退院時も現在も利用していない」「退院時は利用していたが、現在は利用していない」を選択した方のみ回答



訪問診療を利用しない理由については「主治医のいる病院等への通院で特に支障がない」が55.1%と最も多く、次いで「制度自体を知らない」が21.7%となっている。「その他」では「利用したいが契約に至っていない」「手続きが大変でなかなか進まない」等の意見があった。

年齢別にみると、【0～6歳】では「主治医のいる病院等への通院で特に支障がない」が63.0%、【7～18歳】では「主治医のいる病院等への通院で特に支障がない」が51.5%、【19～39歳】では「主治医のいる病院等への通院で特に支障がない」と「その他」が44.4%となっている。

## ②-1 訪問看護

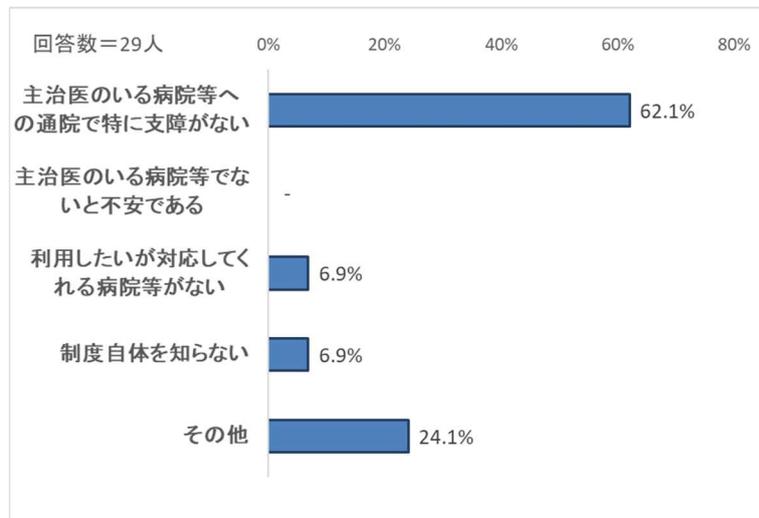


訪問看護について、「退院時から現在も継続して利用している」が40.2%と最も多く、次いで「退院時も現在も利用していない」が31.2%となっている。

年齢別にみると、【0～6歳】では「退院時から現在も継続して利用している」が44.5%、【7～18歳】では「退院時も現在も利用していない」が39.4%、【19～39歳】では「退院時から現在も継続して利用している」が47.0%と最も多くなっている。

## ②-2 訪問看護を利用しない理由

※「退院時も現在も利用していない」「退院時は利用していたが、現在は利用していない」を選択した方のみ回答



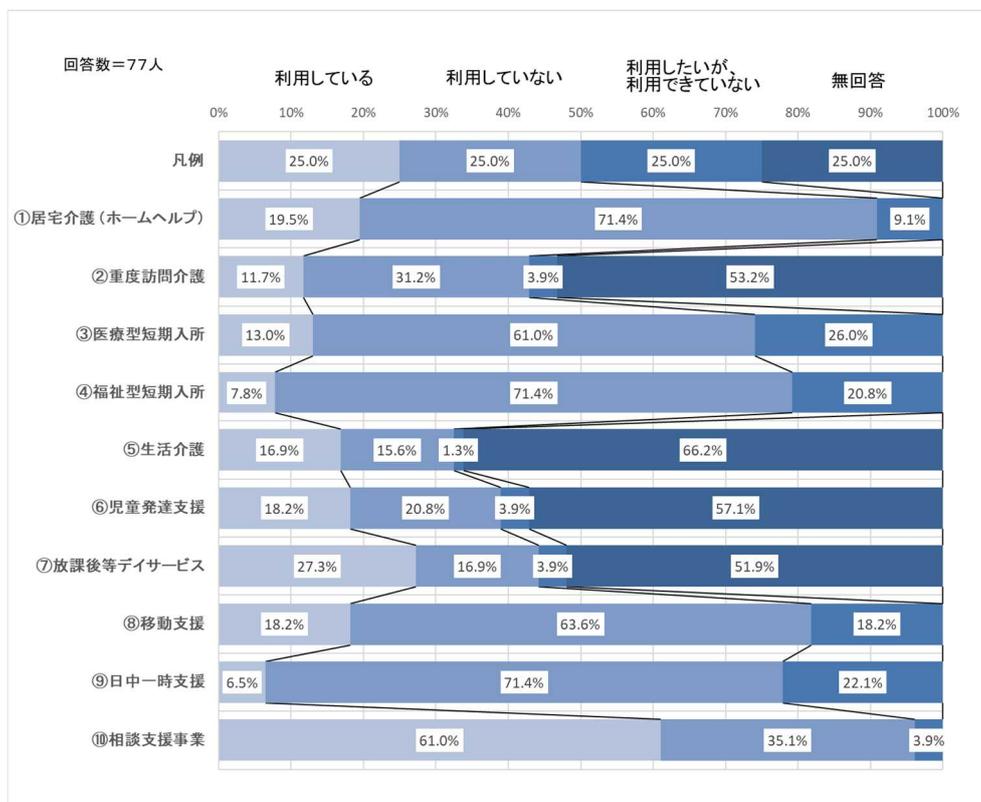
訪問看護を利用しない理由については「主治医のいる病院等への通院で特に支障がない」が62.1%で最も多く、次いで「その他」が24.1%となっている。「その他」では「時間どおりに来てくれないことが頻繁にあり、利用を止めた」「時間が合わない(来て欲しい時間に空きがない)」「どこまでお願いできるかわからない」等の意見があった。

年齢別にみても、「主治医のいる病院等への通院で特に支障がない」が最も多く、【0～6歳】では70.0%、【7～18歳】では50.0%、【19～39歳】では100%となっている。

## 4. 障害福祉サービス等の利用

### (1) 障害福祉サービス等の利用状況

#### ① 障害福祉サービス等の利用状況



※下記に該当する場合、当該サービスを利用できないため、無回答を選択している。

18歳未満の方……………②重度訪問介護、⑤生活介護

就学中、もしくは高校卒業後の方……………⑥児童発達支援

小学校就学前、もしくは高校卒業後の方…⑦放課後等デイサービス

障害福祉サービスの利用状況について、上記に該当することを理由に「無回答」と選択したものを除くと、「利用している」が「利用していない」を上回ったのは【⑤生活介護】【⑦放課後等デイサービス】【⑩相談支援事業】であった。このうち【⑩相談支援事業】が61.0%と最も多くなっている。

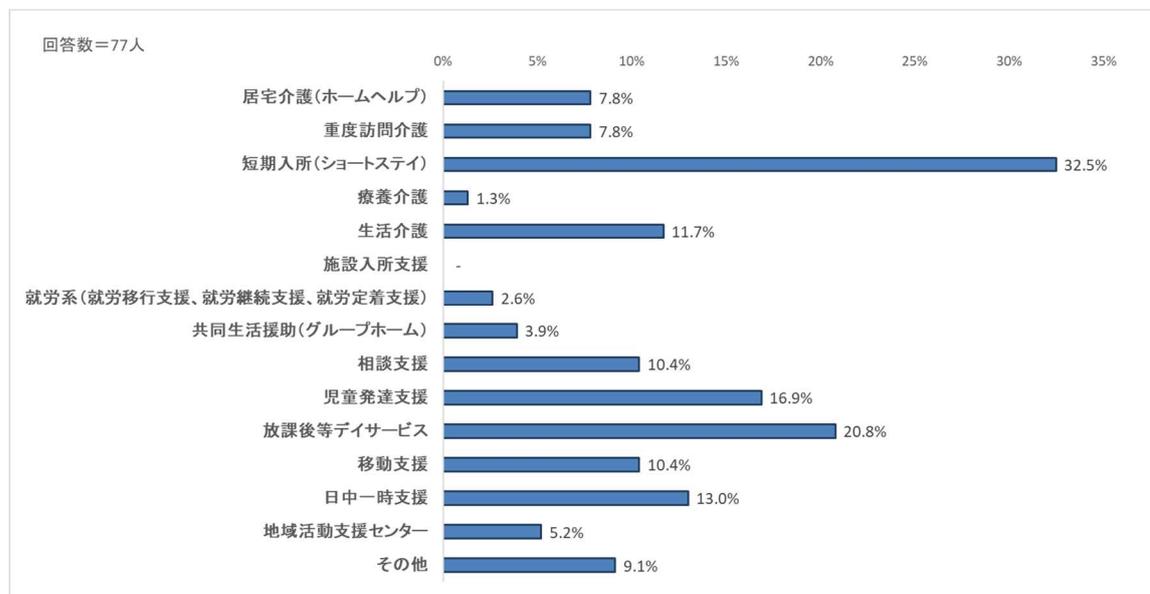
## ② 各サービスを利用できない理由（複数回答）

※「利用したいが利用できない」を選択した方のみ回答

	全体	断られた 医療的ケアを理由に	定員枠が空いていない	対応できない 突然の申込みには	施設・自宅の設備・構造	職員数の不足	本人の特性 (多動・自傷行為)	受け入れてくれるところが分からない	送迎のサービスがない	サービスを知らない	その他
①居宅介護（ホームヘルプ）	7	1	-	-	-	1	-	1	-	3	1
	-	14.3%	-	-	-	14.3%	-	14.3%	0.0%	42.9%	14.3%
②重度訪問介護	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3%	66.7%
③医療型短期入所	20	4	6	6	1	5	2	8	5	1	4
	-	20.0%	30.0%	30.0%	5.0%	25.0%	10.0%	40.0%	25.0%	5.0%	20.0%
④福祉型短期入所	16	5	3	5	1	3	1	9	2	1	4
	-	31.3%	18.8%	31.3%	6.3%	18.8%	6.3%	56.3%	12.5%	6.3%	25.0%
⑤生活介護	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0%
⑥児童発達支援	3	-	1	-	-	-	-	1	-	2	-
	-	-	33.3%	-	-	-	-	33.3%	-	66.7%	-
⑦放課後等デイサービス	3	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1
	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3%	33.3%	33.3%
⑧移動支援	14	2	1	1	-	1	-	5	4	7	2
	-	14.3%	7.1%	7.1%	-	7.1%	-	35.7%	28.6%	50.0%	14.3%
⑨日中一時支援	17	4	3	4	1	3	-	6	3	9	1
	-	23.5%	17.6%	23.5%	5.9%	17.6%	-	35.3%	17.6%	52.9%	5.9%
⑩相談支援事業	3	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-
	-	-	-	-	-	-	-	33.3%	-	66.7%	-

障害福祉サービスを利用したいが利用できない理由について、短期入所では「受け入れてくれるところが分からない」との回答が最も多く、他のサービスに関しては「サービスを知らない」との回答が多かった。

### ③ 一番利用したいサービス（複数回答、2つまで）



一番利用したいサービスについては「短期入所」が32.5%で最も多く、次いで「放課後等デイサービス」が20.8%となっている。

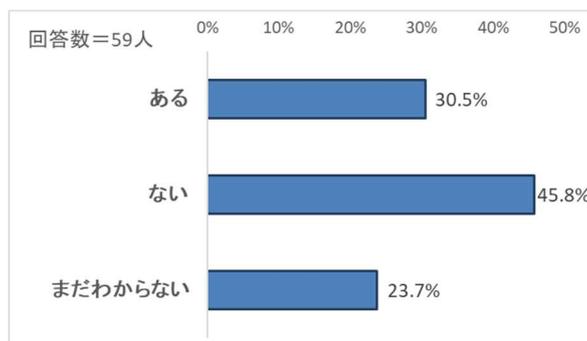
年齢別にみると、【0～6歳】では「児童発達支援」が44.4%と最も多く、次いで「放課後等デイサービス」が22.2%となっている。【7～18歳】では「短期入所」が42.4%と最も多く、次いで「放課後等デイサービス」が30.3%となっている。【19～39歳】では「生活介護」が47.1%と最も多く、次いで「短期入所」が41.2%となっている。

## 5. 就園・就学

### (1) 就園・就学

#### ① 就園・就学先での医療的ケア等の悩み

※「小学校就学前」「就学中」を選択した方のみ回答



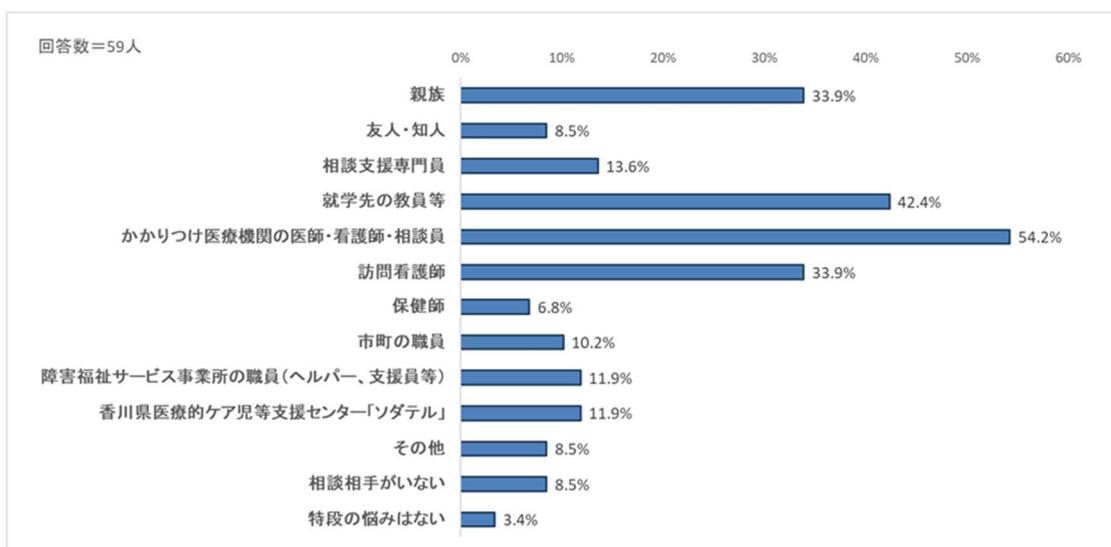
就園・就学先での医療的ケア等の悩みについては「ない」が45.8%と最も多い。

年齢別にみると、【0～6歳】では「ある」が40.8%と最も多く、【7～18歳】では「ない」が59.4%と最も多い。

「ある」と回答した方からは「医療的ケアを要することから就園先、就学先が決まらない」「医師の指示書が全てで臨機応変な対応をしてくれない」「他の子どもと一緒に生活できるか不安」「医療行為に関する周りからの反応が気になる」などの意見があった。

#### ② 就園・就学先での医療的ケア等の相談相手（複数回答）

※「小学校就学前」「就学中」を選択した方のみ回答

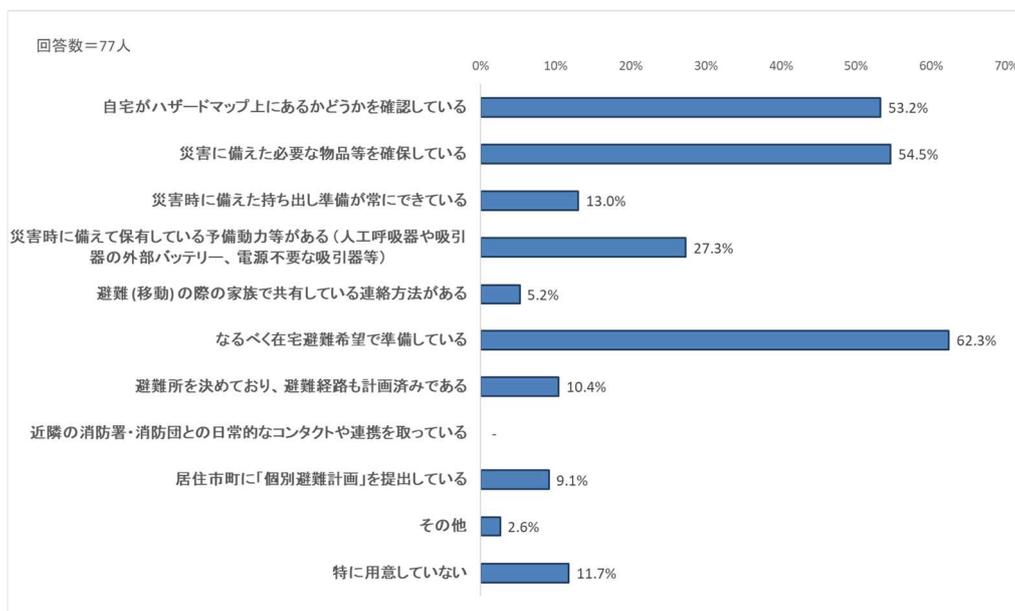


就園・就学先での医療的ケア等の相談相手については「かかりつけ医」が54.2%と最も多く、次いで「就学先の教員等」が42.4%となっている。

年齢別にみると、【0～6歳】では「かかりつけ医」が51.9%と最も多く、次いで「就学先の教員等」が40.7%となっている。【7～18歳】では「かかりつけ医」が56.3%と最も多く、次いで「就学先の教員等」が43.8%となっている。

## 6. 災害時の対策

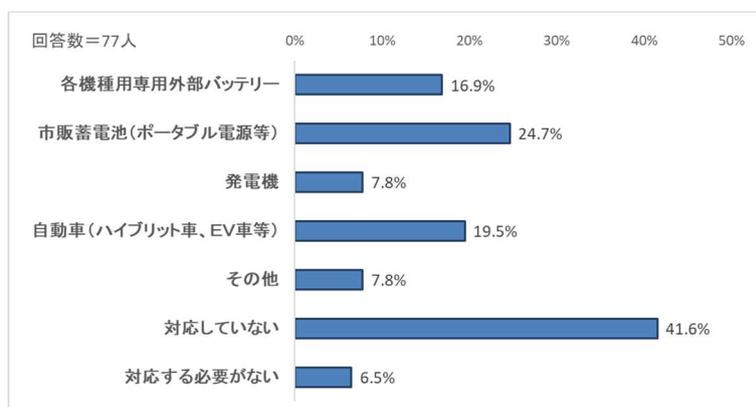
### (1) 災害時の対策について（複数回答）



災害時の対策について、「なるべく在宅避難希望で準備している」が62.3%と最も多く、次いで「災害に備えた必要な物品等を確保している」が54.5%となっている。

年齢別にみても、「なるべく在宅避難希望で準備している」が最も多く、【0～6歳】では63.0%、【7～18歳】では57.6%、【19～39歳】では70.6%となっている。

### (2) 災害時の非常用電源（複数回答）

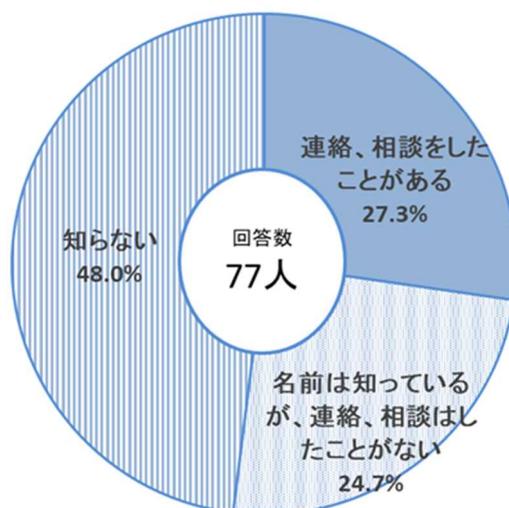


災害時の非常用電源について、「対応していない」が41.6%と最も多く、次いで「市販蓄電池」が24.7%となっている。

年齢別にみると、【0～6歳】では「市販蓄電池」「対応していない」が33.3%と最も多くなっている。【7～18歳】では「対応していない」が57.6%と最も多くなっている。【19～39歳】では「市販蓄電池」「自動車」が41.2%と最も多くなっている。

## 7. 香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」等

### (1) 香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」



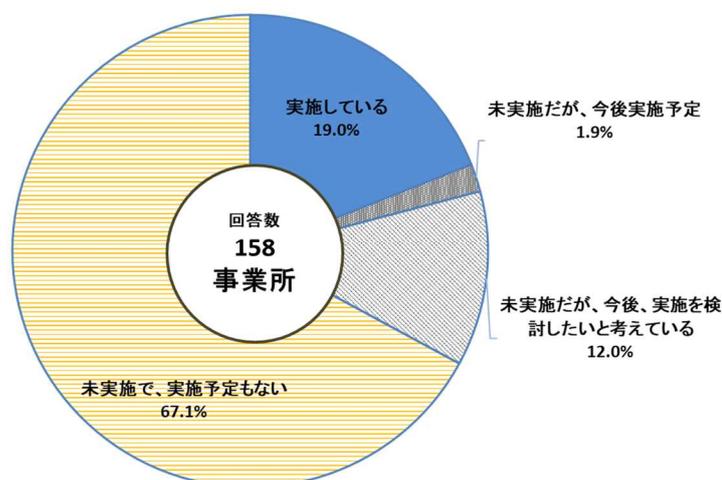
香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」について、「知らない」が48.0%と最も多く、次いで「連絡、相談をしたことがある」が27.3%となっている。

年齢別にみると、【0～6歳】では「連絡、相談をしたことがある」が48.2%と最も多く、次いで「知らない」が37.0%となっている。【7～18歳】では「知らない」が54.5%と最も多く、次いで「名前は知っているが、連絡、相談はしたことがない」が30.3%となっている。【19～39歳】では「知らない」が52.9%と最も多く、次いで「名前は知っているが、連絡、相談はしたことがない」が29.4%となっている。

# 『医療的ケア児等の支援に関わる事業所調査』の結果

## 1. 医療的ケア児等に対するサービス提供の実施状況

### (1) 医療的ケア児等に対する支援の実施の有無

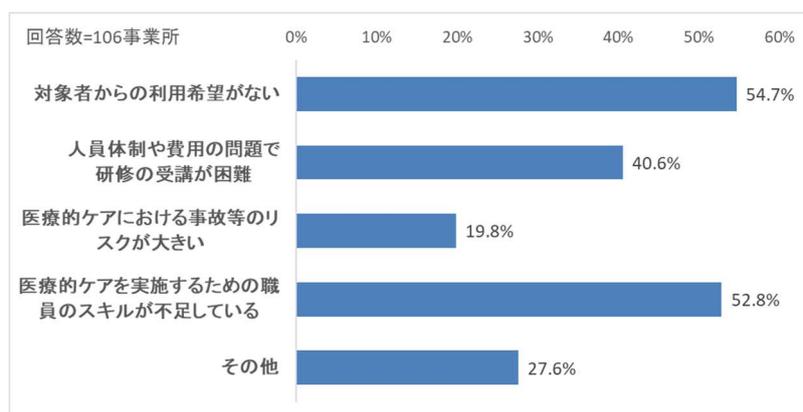


医療的ケア児等に対する支援の実施の有無について、「未実施で、実施予定もない」が67.1%と最も多く、次いで「実施している」が19.0%となっている。

市町別では、【善通寺市】【土庄町】を除き、「未実施で実施予定もない」が最も多くなっている。事業所種別では、【生活介護】【相談支援事業所】を除き、「未実施で、実施予定もない」が半数以上を占めている。

### (2) 医療的ケアを実施していない理由（複数回答）

※事業所において医療的ケアを「未実施で、実施予定もない」を選択した方のみ回答

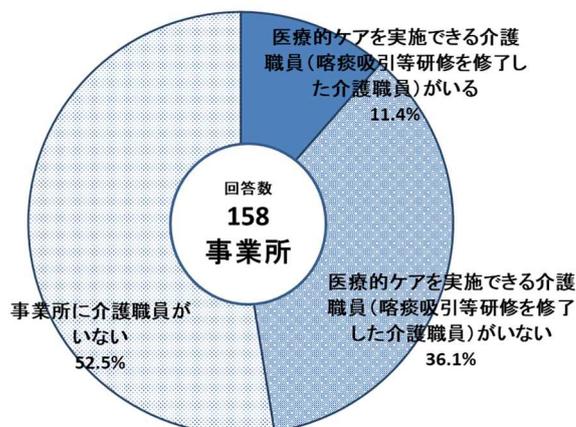


医療的ケアを「未実施で、実施予定もない」と回答した事業所を対象に、理由について調査したところ、「対象者からの利用希望がない」が54.7%と最も多く、次いで「医療的ケア児を実施するための職員のスキルが不足している」が52.8%となっている。

「その他」では「病院内に小児科はあるが訪問でフォローできるドクターがいない」「職員不足もあり、医療的ケアに従事できる職員の確保が難しい」「利用者が高齢化しており、職員体制が取れない」といった意見があった。

## 2. 介護職員による医療的ケアの実施

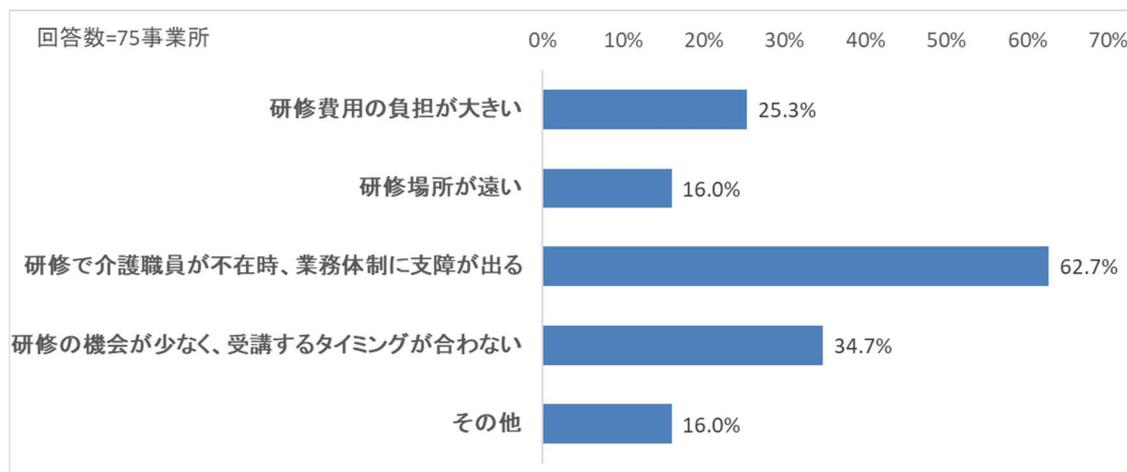
### (1) 医療的ケアを実施できる介護職員



医療的ケアを実施できる介護職員の有無について、「事業所に介護職員がいない」が52.5%と最も多く、次いで「医療的ケアを実施できる介護職員(喀痰吸引等研修を修了した介護職員)がいない」が36.1%となっている。

### (2) 介護職員が研修を受講する際の課題(複数回答)

※事業所に介護職員がいる(「医療的ケアを実施できる介護職員がいる」「医療的ケアを実施できる介護職員がいない」を選択した方のみ回答)

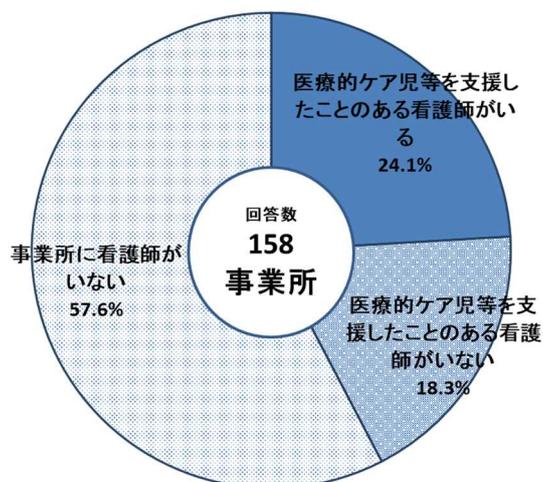


研修を受講する際の課題について、「研修で介護職員が不在時、業務体制に支障が出る」が62.7%と最も多い。

「その他」では「対象利用者がいないため受講していない」「研修受講については特に問題はないが、研修を受けた介護職員がすぐに辞めてしまうため職員が増えない」「看護師がいるため急いで研修を受ける必要がない」といった意見があった。

### 3. 看護師による医療的ケア児への支援の実施

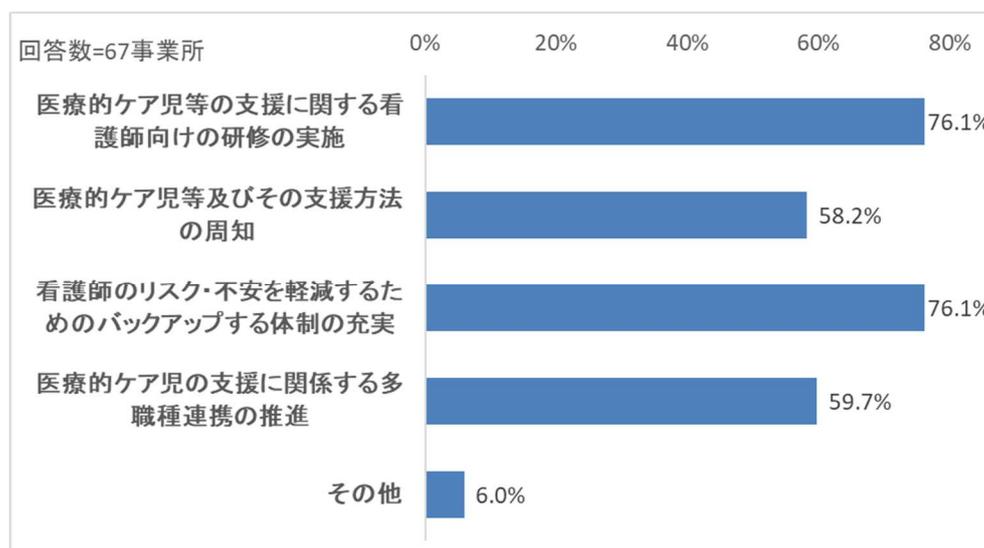
#### (1) 看護師による医療的ケア児等への支援



医療的ケア児等を支援したことがある看護師の有無及び人数について、「事業所に看護師がいない」が57.6%と最も多く、次いで「医療的ケア児等を支援したことがある看護師がいる」が24.1%となっている。

#### (2) 看護師による医療的ケア児等への支援の推進（複数回答）

※事業所に看護師がいる（「医療的ケア児を支援したことがある看護師がいる」「医療的ケア児を支援したことがある看護師がいない」）を選択した方のみ回答



看護師による医療的ケア児等への支援の推進について、「医療的ケア児等の支援に関する看護師向けの研修の実施」と「看護師のリスク・不安を軽減するためのバックアップする体制の充実」が76.1%と最も多く、次いで「医療的ケア児等の支援に関係する多職種連携の推進」が59.7%となっている。

「その他」では「小児科医と緊密に連携が取れる体制がなければ対応できない」「訪問入浴介護に看護師は従事しているが、人手不足である」等の意見があった。